

このことについて、下記のとおり「麦作情報（第4号）」について送付しますので、業務の参考にして  
ください。

## 令和8年産麦作情報（第4号）

### 1. 気象の概要

- ◆平均気温…2月1半旬～2半旬は平年並みからやや低く推移したが、それ以降は平年より高く推移した。（平年値+1.8℃）
- ◆降水量は…2月24日～27日に計81.5mmのまとまった降雨があったため、平年より多く推移した。（141%）
- ◆日照時間…2月の日照時間は、平年よりやや多照で推移した（平年比109%）。

### 2. 管内麦類の生育状況

場所	品種名	播種日	苗立ち数 (本/㎡)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉数 (L)	葉色 (SPAD)
鍋島	シロガネコムギ	11/19 (11/24)	188 (124)	39.4 (17.9)	705 (621)	8.7 (5.9)	42.8 (44.6)
北川副	さちかおり	11/21 (11/24)	137 (160)	34.3 (18.1)	1376 (1228)	9.0 (7.3)	40.2 (43.6)
川副	はるか二条	11/25 (12/10)	134 (145)	42.7 (13.8)	1034 (408)	9.5 (4.4)	42.7 (46.0)

注 1) ( ) 記載は昨年度の生育状況。圃場、播種日など条件が異なるため、あくまでも参考程度。

#### 【概況】

- 11月中旬播種の小麦及び11月下旬播種の大麦で、現在9～10葉期頃となっている（写真5～10）。  
平年と比べ葉齢は2葉程度進んでおり、生育は7日程度早いと考えられ、間もなく穂ばらみ期を迎える。
- 播種が遅れた大麦圃場では、冷え込みと降雨が少なく推移した影響により、生育が遅れている。
- カモによる食害が各地で散見され、特に大きな河川やクリーク付近の圃場で被害が見られている。

◎農試作況試験における麦類の生育（3月2日調査）

品種	播種期 (月/日)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)	概況4) (平年値または平均値と比較して)
1) シロガネコムギ	11/20	本年	33.7	711	7.7	46.0	[気象] 2/10~3/1 まで ◆平均気温…3.0°C高い ◆日照時間…長い(平年比 117%) ◆降水量…多い(平年比 175%) [生育] ◆草丈 「シロガネコムギ」は両作期とも低く、「サチホゴールドン」、「はるか二条」は両作期とも高い。 ◆茎数 「シロガネコムギ」は 11/20 播種で少なく、12/10で多い。「サチホゴールドン」は 12/1 播種でやや少なく、12/1 播種で多い。「はるか二条」は 12/1 播種で平年並み、12/1 播種で多い。 ◆葉齢 「シロガネコムギ」は 11/20 播種でやや多く、12/10 播種で多い。「サチホゴールドン」、「はるか二条」は両作期とも多い。 ◆葉色 「シロガネコムギ」は 11/20 播種で平年並み、12/10 播種でやや濃い。「サチホゴールドン」は両作期ともやや淡い。「はるか二条」は 12/1 播種でやや濃く、12/10 播種で濃い。 ◆生育ステージ(次頁参照)
		平年	37.8	775	7.5	46.5	
		平年差(比)	89	92	+0.2	-0.5	
	12/10	本年	21.7	903	7.1	49.8	
平年		26.6	685	6.2	48.4		
平年差(比)		82	132	+0.9	+1.4		
2) サチホゴールドン	12/1	本年	30.0	1114	7.9	44.0	
		5ヶ年平均	28.1	1135	6.8	44.7	
		平年比(差)	107	98	+1.1	-0.7	
	12/10	本年	28.5	1455	7.2	43.3	
平年		22.7	920	6.3	45.8		
平年比(差)		126	158	+0.9	-2.5		
3) はるか二条	12/1	本年	29.3	979	8.0	50.4	
		5ヶ年平均	26.4	979	6.8	48.5	
		平年比(差)	111	100	+1.2	+1.9	
	12/10	本年	27.4	974	7.2	51.9	
平年		25.7	904	6.5	48.8		
平年比(差)		107	108	+0.7	+3.1		
留意点	◆2月下旬の適度な降雨で、停滞気味であった生育が進んだ。茎立ちは平年よりやや早い傾向にある。 ◆茎立期(節間長2cm、草丈約25cm)を迎えている圃場では、幼穂凍死を避けるため、土入れを中心とした管理を行う。 ◆圃場内の排水を促進するため、必要に応じて畦溝の切り通しを行う。 ◆追肥Ⅱが必要な品種は追肥時期を迎えている。						

◎本年の生育ステージ

品種	播種期 (月/日)	年次	幼穂形成始期 (月/日)	節間伸長開始期 (月/日)	茎立期 (月/日)	出穂期 (月/日)
シロガネコムギ	11/20	本年	1/27	2/18	2/21	未
		前年	2/3	3/1	3/5	4/7
		平年	1/30	2/18	2/22	3/30
	12/10	本年	2/23	未	未	未
		前年	3/5	3/17	3/19	4/11
		平年	2/21	3/1	3/4	4/5
サチホゴールドン	12/1	本年	2/4	2/25	2/27	未
		前年	2/13	3/12	3/14	4/8
		平年	2/8	2/27	3/5	3/31
	12/10	本年	2/9	2/28	未	未
		前年	2/18	3/13	3/16	4/11
		平年	2/11	3/3	3/7	4/3
はるか二条	12/1	本年	2/4	2/24	2/26	未
		前年	2/13	3/8	3/10	4/7
		平年	2/8	2/25	3/3	3/31
	12/10	本年	2/7	2/25	2/27	未
		前年	2/18	3/10	3/12	4/11
		平年	2/9	2/25	3/1	3/31

### 3. 今後の管理

#### 1) 施肥

##### (1) 穂肥

- 降水量の多少により肥料成分の流亡量は変動する。本年麦作期間の降水量は平年より少なく（表1参照）、流亡は少ないと考えられる。穂肥の施用量は基準量とする。

○表1. 本年麦作における降水量積算(mm)

期間	降水量積算(mm)		平年比 (%)
	平年値	本年	
11/15～3/5	251.5	185.5	74
1/1～3/5	146.7	131.0	89

- 穂肥は茎立ち期（草丈 25cm 程度）までに施用する。12月上～中旬に播種された圃場では、施用時期となっているので、天候を見ながら施用時期を逸さないよう施用する。  
なお、すでに茎立ちしているところでは、麦踏みを行いながらの施肥は避け、動力散粒機やブロードキャスター等で散布（施用量 1～2 割程度増）する。
- 肥効を高めるため、穂肥後に土入れを行うとより効果的である。
- 堆肥等施用で倒伏の恐れがある圃場では穂肥を施用しない。

##### (2) ビール大麦「サチホゴールド」の穂肥

- ビール大麦「サチホゴールド」は、品質基準（粗タンパク含量：10.0～11.0%）を満たすため、表2を参考に2月の降水量と葉色により、穂肥量を決定する。

○表2. 「サチホゴールド」の穂肥診断基準

2月の月間降水量 (平年値：76mm)	3月上旬の葉色 (SPAD値)	穂肥施用量 (N成分/10a)	
		100mm以上の場合	50mm～100mmの場合
今年2月降水量は <b>100.5mm</b>	葉色にかかわらず原則施用する	3kg*	3kg*
		42以下	3kg
50mm～100mmの場合	43～45	3kg	2kg
	46以上	2kg	2kg
50mm以下の場合	42以下	2kg	2kg
	43以上	施用しない	施用しない

今年産は **3kg** 施用

※茎立ち期を過ぎた圃場では、倒伏の可能性を鑑み7割の施用量に抑える。

#### ○穂揃期追肥（実肥）

タンパク含有率向上のため、穂揃期追肥を施用する。特にパン用小麦は必ず施用する。

○表3. 穂揃期追肥の施肥基準目安

葉色	用途	品 種	窒素量 (kg/10a)	実肥の施用量 (kg/10a)	
				硫安の場合	尿素の場合
葉色に関わらず必ず施用	パン	はる風ふわり	5	25	12.5
		さちかおり	7	30	15
	めん	チクゴイズミ	3	15	7.5
シロガネコムギ		2	10	5	
葉色が淡い場合に施用 注1)	ビール	サチホゴールド	2	10	5

注1) 出穂期前頃の SPAD 値がシロガネコムギで 40 以下、ビール大麦で 39 以下の場合。

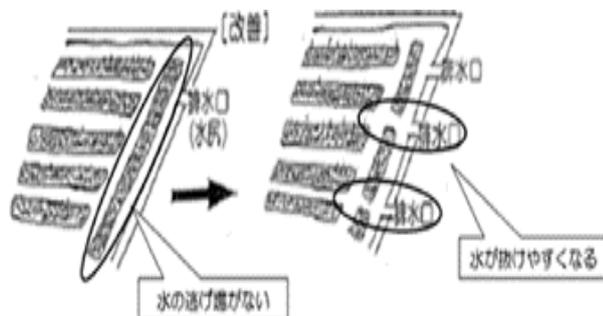
注2) 穂揃期追肥は、出穂期の 3 日後が効果的。それ以降に施用する場合は増量が必要。

## ＜液肥利用の留意点＞

- 肥料を溶かす際は、直接タンクに入れると溶けない場合があるため、事前にお湯等で溶かし、タンクに入れると濃度ムラがなくなる。  
※硫酸による液肥施用は難しいため、液肥利用の際は尿素を用いる。
- 乗用管理機での施用の場合、赤かび病防除との同時施用も可能。ただし施用時期が遅くなるため、3～4割追加した量が必要になる。
- 液肥施用後、芒や葉先などに肥料焼けがみられるが、収量や品質への影響は小さい。

## 2) 排水対策

- 排水対策は、分けつの確保や登熟向上・収量向上・品質向上に重要である。
- 土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。  
→特に、トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良（うね溝の停滞水が多くなる）となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。
- 近年は温暖化の影響で出穂期前後から大雨が降ることが多い。水が溜まったら排水溝に逃がす作業を必ず実施する。



## 3) 病虫害防除

- 網斑病・赤かび病は予防が基本となる。本年の出穂期は、平年と比べ前進化すると予想されるため、時期を逸しないよう防除準備・対策を講じておく。



写真1.オオムギ網斑病

### (1) オオムギ網斑病

- 圃場・株ごとの差が大きくなっているため、各圃場の発生状況を確認することが必要である。
- 防除適期は出穂期～穂揃期で、この時期の防除効果が最も高い。しかし、早い時期から発生株が散見され、病斑が上位葉に進展している場合は、直ちに防除を行うとともに、出穂期～穂揃期にも防除を実施する。

#### 網斑病の防除適期

麦種	全茎数の40～50%が出穂した日	出穂期	穂揃期	全茎数の80%が出穂した日（出穂期から概ね2～3日後）					
		0	+5日	+10日	+15日	+20日	+25日		
大麦	←—————→								

注1) 出穂期とは全茎数の40～50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。

注2) 矢印は防除適期を示し、薬剤については次表を参照とする。

注3) 出穂期より早い時期から発生株が散見され、病斑が上位葉に進展している場合は、この時期にも防除を実施する。

### ○表4. チルト乳剤25使用方法

農薬名	適用病虫害名	希釈倍数	使用液量 (/10a)	使用時期	総使用回数	使用方法
チルト乳剤25	網斑病	1000倍	60～150L	収穫21日前まで	1回	散布
		8倍	0.8L			無人航空機による散布

※ チルト乳剤は1回しか使用できないので注意する。

## (2) コムギ黄斑病

- ・降雨などの多湿条件と 10℃以上の気温条件が、一次伝染および二次伝染を助長する。
- ・前作が大豆の圃場では、水稻の圃場より顕著に発生が多くなる傾向にある。また、発病には品種間差異があり、シロガネコムギは耐病性があるが、チクゴイズミ、ミナミノカオリ、はる風ふわり、さちかおりで発病が確認される。
- ・本病が上位葉まで進展すると、収量・品質に影響を及ぼす恐れがあるため、出穂期までに薬剤防除を徹底する。  
(登録薬剤：チルト乳剤、ワークアップフロアブルなど)



写真2.コムギ黄斑病

## (3) 赤かび病

過去に他県にて、小麦のカビ毒(DON)の基準値(1.0mg/kg)を超過するものが流通し、商品回収が行われる事故が発生しています(および玄麦の廃棄)。カビ毒に汚染された麦を流通させると、消費者・実需者の信頼を失い、国産麦全体の消費の減少に繋がりがねないため、確実に赤かび病防除を実施する。

- ◎特にパン用小麦(はる風ふわり・ミナミノカオリ・さちかおり)、大麦(はるか二条・しらゆり二条)については2回防除を徹底する。
- ・出穂期は、播種時期や圃場条件、今後の気象等によって異なるため、必ず圃場ごとの生育状況を確認したうえで、適期防除に努める。



- ・感染適期は開花期～乳熟期で、高温多雨(20～27℃)で経過すると激発する。
- ・防除は、下表を参考に必ず圃場の生育状況を確認したうえで、適期防除に努める。

麦種	予想される赤かび病の発生量	全茎数の 40～50% が出穂した日							
		0	+5日	+10日	+15日	+20日	+25日	+30日	
小麦	少～並発生 並～多発生	出穂期		穂揃期		全茎数の 80% が出穂した日(出穂期から概ね 2～3 日後)			
小麦	少～並発生 並～多発生	開花始め～開花期		薬殻抽出期					
大麦	少～並発生 並～多発生	薬殻抽出期							

- 注1) 出穂期とは全茎数の40～50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。  
 注2) 小麦の開花期とは40～50%の穂が開花した日。  
 注3) 大麦の薬殻抽出期とは、50%以上の穂で薬殻が見え始めた日。  
 注4) 大麦で2回目の防除を行う場合、薬剤の使用方法(収穫前日数)に特に注意する。

### ① 小麦の防除時期

- ・1回目の防除時期：開花最盛期(出穂期の約7～10日後)
- ・多発生が予測される場合は2回実施(1回目の10～20日後)

「パン用小麦」は、必ず2回防除を徹底する。



写真3.小麦開花期

②大麦の防除時期

- 1 回目の防除時期：葯殻抽出始め（出穂期の約2週間後）
- 多発生が予測される場合は2回実施（1回目の7日後）

大麦の芒(のげ)の下から  
黒い葯殻が出る時期に防除



「はるか二条」は、必ず2回防除を徹底する。

※大麦でトップジンM水和剤を使用する場合は、  
収穫30日前までの使用となっているので注意する。

写真4.大麦葯殻抽出期

4) 雑草対策

- 同一除草剤の連用により除草剤抵抗性雑草の発生が報告されている。
- これまでに同一の除草剤を連用した圃場など、除草剤散布後も雑草の取りこぼしが目立った圃場では使用する除草剤の変更を検討する。
- 生育期除草剤は、草種や使用時期によって効果に差があるため、優先している雑草の種類に応じ、処理時期を逸しないよう対処する。（下表参照）

【注意】

- 麦踏前後の除草剤散布は薬害を助長するため避ける。
- 除草剤散布後、すぐに土入れを行うと、有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。

○表5. 除草剤使用基準

生育期処理						
バサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	100~ 200ml	70~ 100L	雑草 3~6 葉期 小麦：収穫 45 日前まで 大麦：散布適期外	1 回 以内	・ミヤナギ、カスノコグサ、ミナソウ等への効果は劣る
エコパートフロアブル※1	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	50~ 100ml	100L	節間伸長開始期まで (広葉2~4葉期) (ヤエムグラ2~6節期) ただし収穫 45 日前まで	2 回 以内	・薬害が出やすい ・ヤエムグラ優先圃場で使用
ハーモニー75DF	イネ科雑草 ・スズメノテッポウ ・カスノコグサ 広葉雑草 ・ミチヤナギ ・タデ類 ・キツネノボタン ・ヤエムグラ ・ナズナ ・ハコベ	5~ 10g	100L	は種後~節間伸長前 (スズメノテッポウ5葉期まで) (カスノコグサ1~3葉期まで)  ※小麦のみ は種後~穂ばらみ期まで 但し収穫 45 日前まで  大麦：散布適期外	1 回 以内	・カスノコグサには10g/10aとし、土壌処理剤との体系処理で使用 ・周辺作物(特にタマネギ)への飛散には十分留意する ・ヤエムグラ、カスノコグサへの効果は劣る

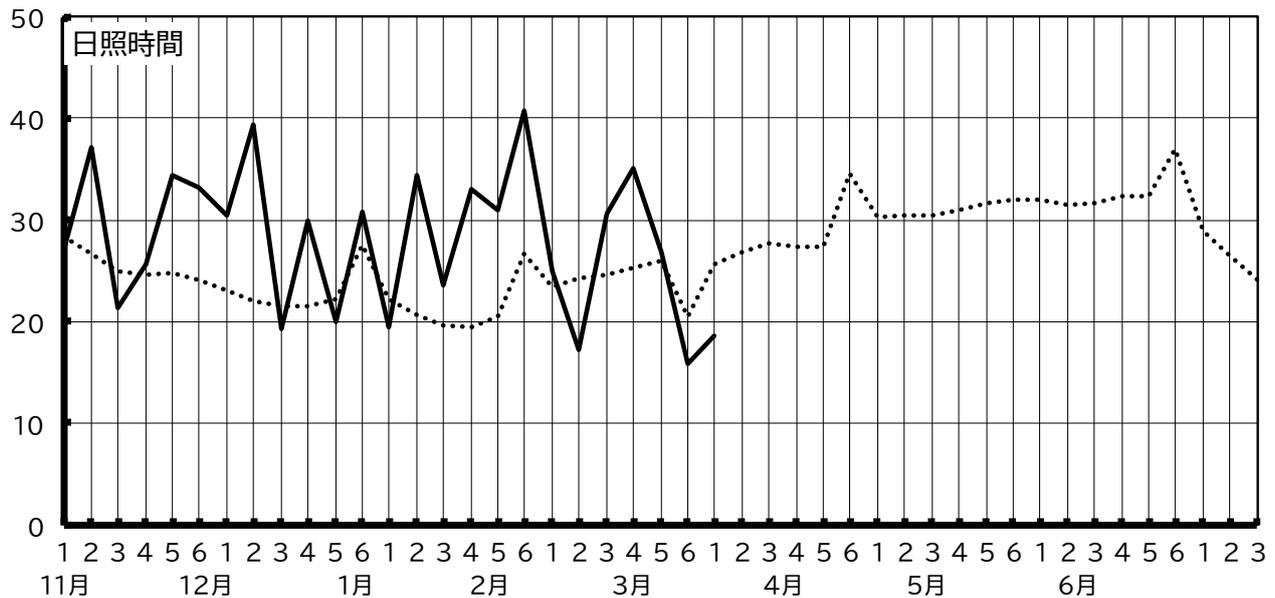
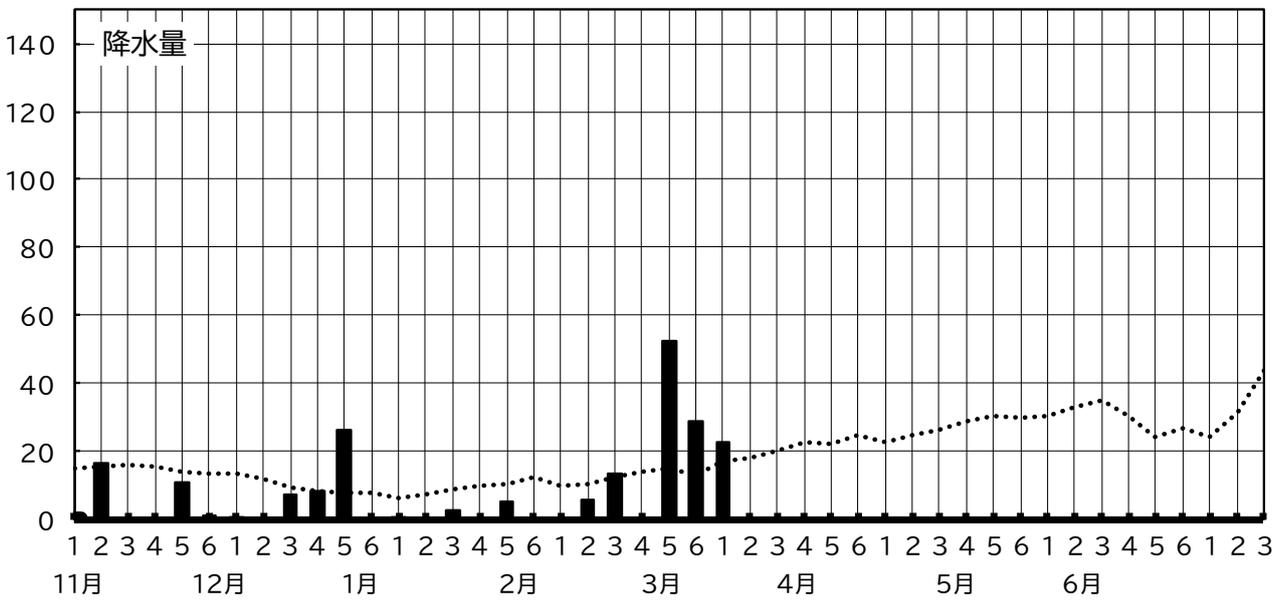
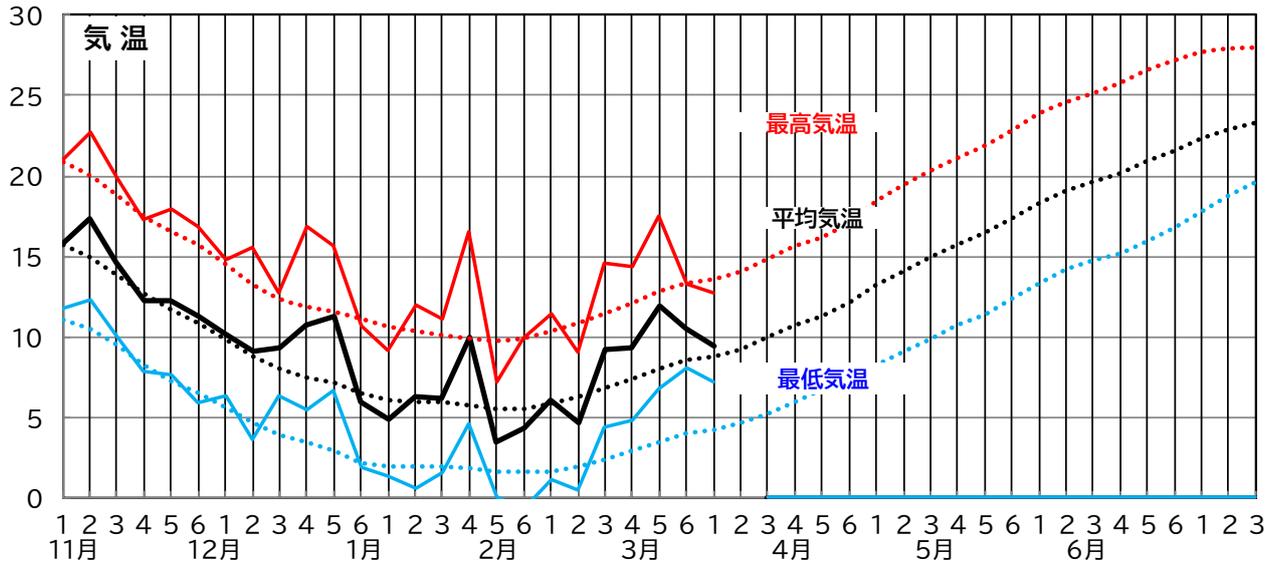
※1 以下の場合、薬害が生じることがあるので留意する。

- 重複散布は避け、麦が生育不良の場合は使用を避ける。

# 令和8年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値(佐賀)

佐城農業振興センター



※グラフ中の点線は平年値



写真 5.6 R8 年産シロガネコムギ情報田の状況



写真 7.8 R8 年産さちかおり情報田の状況



写真 9.10 はるか二条情報田の状況